

職業奉仕について考えてみた

職業奉仕という言葉は一見して簡単に見えますが、対峙して考えれば答えが見つからないほど非常に意味深い言葉と言えます。そもそもロータリーはアメリカつまり英語圏で誕生しました。その用語ひとつひとつが和訳な訳です。職業奉仕：Vocational Service 直訳すると職業サービス。ではサービスとは？「広辞苑では①奉仕②給仕・接待③商店で値引きや客の便宜を図ったりすること④物質的生産過程以外で機能する労働【サービスとは主に「相手のために尽くすこと」で、いずれも形の無いものです。サービスは形の無いものと覚えておきましょう。】」とあります。ここで重要なのは「相手のために尽くすこと」「形の無いもの」というところです。我々はロータリアンとして、ロータリーを通しクラブとして個人としてこの形の無い、相手のために尽くすという事を学ぶのが大切なのではないのでしょうか？

・自分の内に奉仕の心を育て、その心を持って仕事に当たること

奉仕の心は各々が所属するロータリークラブの活動の中でも育っていきます。私は山形南ロータリークラブに入会して15年目になります。クラブとして職業奉仕に関する活動に携わり、14年経過し少しだけわかりかけてきたと感じています。奉仕の心はクラブの活動はもちろん、自らをロータリアンと自覚し生活することで育まれていくのではないのでしょうか。つまりその育まれていく奉仕の心をもって日常生活に当たる。職業人は日常として仕事に従事しているわけですから、自ずと奉仕の心をもって仕事に当たることとなります。言葉で表すことは簡単ですが、私自身が日常生活において実践できているかは自信がありません。ただ、日々のロータリー活動、ロータリアンとしての自覚このことを意識して生活することが大切なのだと思います。

・自らの職業を通じて、社会の発展や未来の創造のために奉仕すること

職業は人それぞれです。私の職業分類は「不動産賃貸業」です。自社物件のテナント賃貸と自社物件による介護福祉を主な生業としています。テナントはインフラなので社会の発展には少なからず寄与できていると思いますし、介護福祉は福祉サービスですので社会のために存在していると考えます。しかし、ここで言う「自らの職業を通じて、社会の発展や未来の創造のために奉仕すること」というのはまた少し違ったニュアンスがあるのではないのでしょうか？ロータリアンとして自らの職業つまり会社や仕事だけではなく、自分自身の仕事における役割や、日々の仕事における行いが地域の発展や未来の創造にどう貢献するか？どう奉仕していくか？ということと考えます。これまでの自らの職業における地域や人との関わり方、これからの関わり方を「地域の発展」「未来の創造」というキーワードから「奉仕」という大きな理念に結びつけていきたいと思っています。

ロータリアンとして自らの職業を通して奉仕するにあたり、以下の二つの言葉をよく考え、どうしたら行動に結びつけられるかを意識してこれからの職業奉仕に取り組みたいと考えます。

超我の奉仕：service above self (フランクリン・コリンズ)

最も良く奉仕するもの、最も多く報われる : One profits most who service
best (アーサー・フレデリック・シェルドン)